

みんなで築く美ら島・うまんちゅの道づくり 沖縄における道路行政の平成18年度達成度報告書 ／平成19年度業績計画書を作成しました

－ 政策の目標達成に向け、県民との協働、コミュニケーションを図っていきます －

沖縄ブロック幹線道路協議会において、昨年度（平成18年度）に業績計画書として策定した目標計画の達成度を確認・評価・分析し、今年度の目標計画を設定した「沖縄における道路行政の平成18年度達成度報告書/平成19年度業績計画書」を策定しました。

11月13日に沖縄地方道路懇談会（別紙：メンバー一覧）を開催し、メンバーの皆様の意見を踏まえ、最終策定しています。

【目的】

道路行政においては、実施している施策・事業の効率化と透明性の向上を目指し、平成15年度から「成果志向」の考え方にに基づき、事前に事業の成果の数値（アウトカム指標）目標を設定、効率的に成果を意識した事業を実施し、実施事業の評価・分析を行ったうえで、以降の施策・事業に反映させる道路行政の仕組み（＝道路行政マネジメント）を導入しており、その取組みの中の一つとして「達成度報告書／業績計画書」を策定しています。さらに今年度は導入から5年目の節目を迎えており、これまでの取組みに対する効果・評価の詳細分析を実施し、今後のさらなる取組みに反映していきます。

平成19年11月29日
沖縄ブロック幹線道路協議会

問い合わせ先：沖縄総合事務局開発建設部道路建設課

課 長 きんじょう ひろし 金城 博

道路計画調整官 たから てつじ 高良 哲治

電 話 098-866-0091（直通）

【主なアウトカム指標の平成18年度の達成度】

- ①空港・港湾まで、30分以内で安全かつ安定的に走行できる人の割合
H17実績値 H18実績値 (H18目標値)
62.6% → 62.9% < (63.3%以上)【未達成】
(分析結果：国道331号豊見城道路の開通等、事業が完成したことにより圏域拡大はみられたが、一部事業の供用が遅れたため目標は未達成となった。)
- ②道路渋滞による損失時間（渋滞モニタリング区間）【単位：百万人時間/年】
H17実績値 H18実績値 (H18目標値)
48.7 → 49.6 > (44.6以下)【未達成】
(分析結果：依然として那覇都市圏への集中や走行台キロの延びにより、目標は未達成であるが、渋滞対策実施箇所では、対策前に比べ渋滞が緩和したため、取組みの効果はある程度みられた。)
- ③道路交通における死傷事故率【単位：件/億台km】
H17実績値 H18実績値 (H18目標値)
75.8 → 78.4 > (69.1以下)【未達成】
(分析結果：道路構造の見直し等交通安全対策による事故削減の効果は見られたものの、目標は未達成となった。死傷事故発生件数の増加に対策実施などの対応がおいていないことが考えられる。)
- ④1日当たりの平均利用者数が5,000人以上の旅客施設周辺等の主な道路のバリアフリー化の割合
H17実績値 H18実績値 (H18目標値)
78.0% → 79.0% = (79.0%以上)【達成】
(分析結果：モノレール美栄橋駅周辺の国際通り線において、事業が計画通り完成したため、目標を達成できた。)

【平成19年度の目標計画】

平成19年度の目標達成に向けて、特に渋滞対策及び事故対策については、従来のハード施策の取組みを鋭意推進していくほか、県民・道路利用者との協働、コミュニケーションを図っていくため、下記事業・施策の取組みなどを進めていきます。

- 那覇空港へのアクセス性向上および渋滞対策の取組みとして、那覇空港自動車道の延伸および、公共交通を有効活用すべく、パーク&バスライド社会実験等のソフト施策を実施。
- 事故対策の取組みとして、交差点改良などのハード施策として交通安全対策事業を実施するとともに、対策後の効果について地域住民と一緒に評価するパトロールの実施、事故多発箇所の交通事故安全マップの作成等といったソフト施策を実施。

平成19年度 沖縄地方道路懇談会メンバー

座長	上間 清	琉球大学名誉教授（交通計画）
メンバー	富川 盛武	沖縄国際大学教授
メンバー	堤 純一郎	琉球大学教授
メンバー	矢吹 哲哉	琉球大学教授
メンバー	小濱 哲	名桜大学教授
メンバー	比嘉 良雄	モノレール(株)社長
メンバー	中山 良邦	（社）沖縄県バス協会会長
メンバー	中根 学	沖縄タイムス社論説委員会副委員長
メンバー	前泊 博盛	琉球新報社編集局次長
メンバー	幸地 優子	フリーアナウンサー
メンバー	宮里 由紀子	（社）那覇市観光協会副会長
メンバー	白石 武博	（社）沖縄県レンタカー協会会長